

## 平成23年度第2回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成24年 2月23日(木) 9:30~11:30

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- ・村上 雅之委員
- ・神長 信夫委員(副会長)
- ・福田 智恵委員
- ・堀江 佳代子委員
- ・佐藤 ハツエ委員
- ・森川 澄子委員
- ・新嶋 高行委員
- ・伊東 明彦委員(会長)
- ・沼尾 順市委員
- ・田代 広三委員
- ・坂内 剛至委員
- ・糸井 陽子委員
- ・入江 尚見委員

(事務局) 荒川 英利課長, 塩田 雅明所長, 黒須 正宏副所長, 矢野 学指導主事, 駒野 拓也指導主事

○欠席者氏名

なし

○公開 (傍聴者の数 0人)

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

① 平成23年度事業報告について(ア学校受入事業, イ主催事業, ウ利用状況)・・・資料1

事務局 : (資料にそって説明)

議 長 : ただいまの報告について, 質問, 意見があればお願いしたい。

神長委員 : 食事に関して, 学校では, 毎日生産者名, 生産地が表示される。小中学生は, そう教育されているので, 冒険活動センターに来ても同じような対応がされていれば安心する。検討課題でもいいし, やらなくても安全だから大丈夫という考えなのか, どう考えているか。

事務局 : 地産地消をレストラン業者に依頼しているが, センターは学校とは性格がちがう。篠井産, 宇都宮産をどれだけ使えるかはっきりしてくれば, 学校と同じようにしたいが, それは, 今後の課題である。

神長委員 : 食材は, 業者が調達しているということか。

学校は食材の放射線量測定を行っている。今, 県外からの利用者は一番気になるところだと思う。そういうところも明確にしていってほしいと思う。

事務局 : 放射線量測定は, 学校と同じように実施している。食品の安全・安心については, 学校と同じ基準で取り組んでいる。

福田委員 : 23年度は, 海浜での宿泊学習をやめた年でもあったし, 4年生で来た子どもが5年生でも来るということが起こった年でもあったが, 子どもたちの活動の様子や実施の傾向についてお聞きしたい。

事務局 : 今年は, 2年続けてくるという例外的な実施であったが, 子どもたちは続けてくるということで安心感をもって来ていると感じた。場合によって, 先生のほうが久しぶりであったり, 初めてであったりということがあり, 子どもたちの方が慣れた様子で生活していた。ただ, 2年続けてということ, 2泊3日に日数が増えたということにより, プログラム選択について, 先生方は悩まれたようだ。昨年度と重ならないようにしようという傾向があったが, 「イニシアティブゲーム」については新しいクラスでの仲間作りに役立つということから, 2年続けて実施した学校もあった。また, 昨年雨のため実施できなかった活動をもう一度できるということで, 子どもたちはとても楽しみに来ていたようだ。昨年度までは, 半日単位での活動であったが, 今年度は中日に1日を通した活動ができることもあり, お弁当をもって1日を通して登山など, ゆとりをもって, 幅のあるプログラムを選択し, 体験ができていた。

福田委員 : 中学校の様子はどうか。

事務局 : 中学校は活動日数が1日減ったことにより, 少しつめ込みの傾向がみられた。初日の朝から活動をする学校が増えた。今までは選択活動を多くできたが, 今年度は難しくなり, 選択活動をとるか登山をとるかという選択をしなければならない学校が多くあったように思う。そんな中でも2泊になって, 内容が詰まって充実した活動が行われていた。

福田委員 : 小中一貫教育のもと, 交流活動などが進められているがその取り組みの様子や効果についてはどうか。

事務局 : 小学校と中学校の交流, 小学校と小学校の交流については活動の場面や入所, 退所の場面など多く見られた。小学校と小学校の交流では, 今までやりたくても場所や時間がなかったの, いい機会だという先生方の意見があがっている。小中一貫教育の流れについては, 今年度の小学5年生が中学校に進級したときに, 系統だった体験学習となる

と考へ、今後、活動の系統性を学校などに周知を図っていきたいと考へている。今年度は特に大きな混乱もなく、プラスの要因が多く感じられた。学校間の打合せの時間が増えてしまったが、その機会が先生同士の交流の深まりにつながることを期待したい。

- 議長：具体的には、交流活動とはどのようなかたちで実施したのか。
- 事務局：入所・退所式の合同実施、混合班での活動、キャンドルファイヤーなどの集会活動を合同で行うかたちが多い。また、交流活動として仲間作りゲームを一緒に行うことも多くあった。
- 入江委員：園内の放射線量はどうか。高めのところはあるか。
- 事務局：わんぱく広場脇の小川が若干高くでることがある。しかし、高くても0.2 $\mu$ Sv/hくらいである。
- 入江委員：野外炊飯場はどうか。
- 事務局：野外炊飯場は高くない。風の流れて変わることはあると思うが、野外ステージがすり鉢上になっているのでやや高くでることがある。
- 入江委員：計測の高さはどれくらいか。
- 事務局：50cmと1mの高さで計測している。
- 入江委員：薪を燃やすと灰が溜まり、その灰は放射線量が高くなるというが、活動後の灰の処理についてどのような工夫をしているか。
- 事務局：ゲージのついた灰捨て小屋に廃棄をしているが、放射線量は高くないので安心している。活動で、落ち葉を使ったりする場合も活動場所で放射線量を測定し、情報を学校に提供して実施している。前回指摘のあった水辺の活動についても、カヌーの活動場所において、放射線量を測定し、安全を確認して実施している。
- 神長委員：2ページの資料で、登山の実施回数が24回、実施校数が18校となっているが、この資料は実施した回数ということか。
- 事務局：実際に実施した回数で示している。大規模校では、一回での実施が難しいときもある。野外炊飯などとのたすきがけでの実施もあるので、実施回数でカウントした資料である。
- 神長委員：実施学校数で示してほしい。資料作成上のお願いをしておきたい。
- 事務局：そのような資料作りを心がけたい。
- 糸井委員：アンケートで、企業や社会教育団体の利用の話があったが、企業はどのような利用のしかたをしているのか。
- 事務局：純粋な社内レクリエーションであったり、会議室での研修をいれながらの利用であったり、利用形態はさまざまである。
- 議長：企業の利用でもイニシアティブゲームを行ったりするのか。
- 事務局：イニシアティブゲームを実施するときには専門の指導員をつけての実施を紹介している。実施したい場合には、リーダーバンク制度を紹介しているが、現在のところ、企業でイニシアティブゲームを研修に取り入れたいという要望はないが、宇都宮市役所の新人研修では、毎年指導員をつけてイニシアティブゲームを取り入れている。

② 平成24年度事業計画について（ア 学校受入事業、イ 主催事業）・・・資料2

- 事務局：（資料にそって説明）
- 議長：来年度の計画についてご意見あるか。
- 村上委員：教育観の話で申し訳ないが、小学生のテント泊が4～10月とあるが、4月、10月は寒いという感想がある。これも感覚の違いだが、寝袋で寝ることについて衛生面が気になるという意見もあるが、センターとしての見解はどうか。
- 事務局：年2回クリーニングにだしている。また、子どもたちが使用した後は、裏返しにして天日干しをしている。雨が降って使用直後に干せない場合は、後日職員で天日干しをした後に貸し出しをしている。寝る際には、封筒型のシーツを使用して、シーツの間に寝るように指導をし、衛生面にも配慮している。ほかにも新規に購入をする努力をしている。今後も快適なものを提供できるよう対応したい。4月、10月の寒さはあるが、中学生は11月までテントを使用しており、小学生には配慮をしている。4月実施の小学校においては、ロッジ泊も可能な人数で組み合わせをしており、選択できるようにしている。テントは、二重構造になっており、比較的あたたかい。気温が下がる場合は、マットや毛布を敷いたりして環境を整えて対応している。不便さや厳しさはあるが、子どもたちはテントに泊まることを楽しみにしているようなので、テントも選択肢として考えてもらえるとありがたい。
- 村上委員：学校では説明しているが、保護者からはたまにそういう意見がでてくる。学校としてはセンターの方針を今後も保護者に伝えていくが、価値観が多様化していることは確かなことであり、お伝えをしておきたい。

- 事務局 : どういう教育観を一人ひとりもっているかだが、せっかく施設を作ってここにくる子どもたちにどういった体験をさせるかを考えると、やはり不便な体験、つらい体験、寒さを体験してほしい。ご指摘のとおり、保護者の要求が多くなってきていることは十分理解できる。
- 村上委員 : 学校も主旨を説明しているが、主旨を理解していない保護者が多いのかもしれない。高級、きれい、便利をねらっている保護者もいるという現実はある。
- 議長 : ねらいをくり返し説明していくしかないだろう。
- 新嶋委員 : 経験のない保護者の意見であろう。経験をしている保護者からはそういった意見は出てこないと思う。そこが学校の先生が一番悩まれるところではないか。できれば親子で冒険活動センターなどを使って体験をすれば、そのような意見はでてこないのではないか。
- 議長 : 親子で参加するかたちができるとおもしろいだろう。
- 事務局 : 主催事業の中で「家族ふれあいキャンプ」があるが、それは意識の高い人が参加されている。可能であるのかはわからないが、授業参観のようなかたちで、施設を見学してもらったり、子どもの活動の様子を直にみてもらったりすると理解が得られるのではないかと思う。ただ、開催しても足を運ばないようでは意味がない。可能なかぎり、周知を図っていきたい。
- 議長 : ほかにご意見あるか。
- 森川委員 : 自然体験指導者研修会の受講者のその後の活動状況についてを教えてください。
- 事務局 : 数値としての資料はないが、毎回10名程度が受講をしている。受講後の活動として、当センターの主催事業のお手伝いをいただいたりして、研修会終了後もセンターとつながりがある。また、こちらにいる糸井委員も研修会に参加いただいております。主催事業のお手伝いをいただいている。今回、公募の委員として、運営協議会にお力をいただいている。たしかに資格取得後、活躍する場がないのではないかという声も聞くが、冒険活動センターでは、そういう場も提供できている。
- 糸井委員 : 年間のスケジュールはいっぱいだろうが、篠井の里山の土地柄を生かして収穫体験などを実施することはできないだろうか。また、小学校長期自然体験活動指導者養成研修会の開催をしてみたいか。
- 事務局 : 冒険活動センターの事業としては、収穫までを体験することは厳しい。研修会の件は、センターの主催事業として位置づけをしていないが、坂内委員がセンターを使って事業を実施しているので、うまく連携をとりながら広げていきたいと思う。
- 神長委員 : 学校利用、主催事業の説明があったが、資料7ページのリーダーバンク制度の稼働率などを考えて、個人、家族の利用に対してセンターとしてはゆとりがあるのか。小学校と中学校と一緒に宿泊するということがすごいことだと思うが、他の都道府県にあるのか。このような取り組みを目玉にして、広報していくと集客力があがるのではないかと思う。この資料で見えない一般利用の状況について教えてください。
- 事務局 : 個人、家族の利用について週末は空きがある。ただし、夏休みなどの学校の長期休業中の週末については、ほとんど空きはない。平日については、学校利用のある場合は、基本的に一般利用はできない。  
当センターのように、計画的、意図的に小学校と中学校が同時に利用する施設は、少ないと思う。国立などの大きな施設では、偶然同じになることはあるだろうが、計画的、意図的に同じにしている施設は少ないであろう。アピールできる点であると考えている。
- 神長委員 : 素晴らしい試みであるので、情報を発信し、より利用が増えていくといいと思う。
- 事務局 : 中核市の類似施設のなかでは、日本一である。宇都宮市で取り組んでいる日本一事業の1つになっている。内容、支援体制、カリキュラムなど日本一であることをPRしている。
- 神長委員 : それに見合う予算がついているのか。予算も見合ったものにしていく必要があるだろう。
- 議長 : 一般利用は、ゆとりがあるようだが、積極的に利用を勧めていくのか、それとも職員体制などから厳しいのかその点についてどう考えているか。
- 事務局 : 積極的に利用を勧めていきたいと考えている。
- 議長 : そのへんのPRをもっとしていったほうがいいのかという意見があるがどうか。
- 事務局 : 空きが多いのは冬期になる。その他の時期になると大きな団体が利用することが多い。冬の週末にゆとりがあるが、冬期は、土曜日まで学校利用があり、一般利用に制限がでてしまうのが課題である。
- 福田委員 : 平成23年度は、イノシシの話題はなかったのか。
- 事務局 : 落ち着いていた。警備員にも夜中の巡視時に確認をしてもらっているが、今年度は確

認されていない。しかし、実際にいないのかということとそうでもない。山の中を確認すると、掘り返したあとや生々しいフンがあったりするので決していないわけではなく、うまく住み分けができてきたと考えている。今後も注意深く確認していきたい。

議長：ほかにご意見あるか。

## (2) 協議事項

### ① これからの冒険活動事業について・・・資料3

事務局：(資料にそって説明)

事務局：補足になるが、あくまで案である。広く意見をいただけるのは、運営協議会の場しかない。次の開催を待つと9月になってしまうので、今回案を示させていただいた。今回いただいた意見を参考に、使用料金の改正を進めていきたいと考えている。忌憚のないご意見をいただきたい。

議長：利用促進と炊飯場の利用料金の徴収についてだが、重要な事項なので先に利用料金の徴収についてご意見をいただきたい。

沼尾委員：食事は別での案でよろしいか。

事務局：炊飯場を利用したときの料金として示している。

福田委員：家族でキャンプにいてもかまどの使用料はとられることが多いので、徴収することは問題ないと思う。料金設定については、他の公共施設などの状況を参考に考えるよいと思う。あくまでも一般利用者に対しての設定ということか。学校利用については、徴収しないほうがいい。

事務局：他の施設の状況について、資料15ページに示したが、近隣の施設では、みずほの自然の森公園がかまどに課金で1日1000円で設定している。資料に無料の施設もあるが、屋根がなかったり、生ごみが持ち帰りであったりといろいろな条件がついているところが多い。民間施設も示したが、ハローウッズでは、1人1050円のほかに入場料もかかる料金体系になっている。

糸井委員：1かまどは10人で設定されているのか。

事務局：おおよそ10人。家族で使用する場合は、4人で1かまどを使用していただくことも可能である。炊飯場の施設概要は、1棟当たり、10人がけのテーブルが6テーブル、1テーブルあたり2かまど、計12かまど設置している。

沼尾委員：案としては、一般利用の宿泊料金3670円が100円上がるということか。

事務局：宿泊を伴う滞在時に、1回の野外炊飯を実施するというのであればそうなる。

村上委員：この料金設定が、何を目的としているのかよくわからない。試算の収入をあげることが目的なのか、利用促進のひとつの手立てであるのか考えを聞きたい。

事務局：基本的には宇都宮市の歳入となる。すべての市関係の施設が歳入をあげる努力をしている。センターの収入はわずかだが、市全体で積み積もって大きな市の歳入となる。どうやったら歳入が上がるかを検討している。例えば、国立の施設や海浜自然の家では、リネン代を子どもたちから徴収している。今後は、その点についても検討していく必要があると考えている。今回の炊飯場の利用料金の設定は、そのうちのひとつである。いずれまた、ほかの分野で料金徴収がでてくることはあると思う。

村上委員：市全体の財政状況から歳入を上げる必要性はわかるが、教育的視点からお金については学校関係には負担のない形でお願したい。一般利用については、今後積極的に利用を勧めていくというねらいや日本一をPRしていくという観点からも一律に徴収することはどうかと思う。

議長：金額的には大きな額ではないので、どちらかというと象徴的に利用者負担を示していきたいということになるか。

事務局：センターのその他の施設は利用料金をとっているが、炊飯場だけオープンからとっていなかった。そういう意味での見直しもある。みなさんの意見をききながら、これからすすめていくことなので、意見をいただきたい。

沼尾委員：私は地元なので、できれば一般利用を高める努力をしていきたいと考えている。地元で開催するイベントに冒険活動センターを宿泊場所として指定して広報をしたい。ここから地元のイベントに参加してもらえると市中心部に宿泊するお客を篠井に呼ぶことができる。料金的には問題がないと思う。

議長：特に意見がないようだがどうか。これまでもいろいろな料金設定があり、今回そのなかに項目が1つ増えるということで問題ないと思うが意見はあるか。

福田委員：かまどの料金設定がなかった理由はなにかあるのか。

事務局：あくまでも宿泊者優先という考えで、宿泊料金に含まれていたようだ。ただ、その他の施設については料金設定がないのは問題であろうという考えであった。しかし、スタートしてみると日帰り利用で炊飯場を利用する人がかなり多いことがわかった。水道は

自由，生ごみの廃棄もできる，屋根もついていると日帰り利用者にとっては，非常に使い勝手の良い状態である。利用者としてカウントはするが，歳入は0円。15年以上やってきているいろいろな問題がでてきているのが現状だ。

- 森川委員： 施設の維持管理を考えると徴収することが必要だろう。
- 福田委員： 利用料金を徴収しても市の歳入に入ってしまうのは残念である。
- 議長： センターの収入となるのであれば，なおよいと思う。
- 沼尾委員： その分，市からの予算を多くつけてもらえるとうい。料金設定しても利用者も文句はないだろう。
- 事務局： 薪をもってくれば，薪代もかからない。炊飯道具をもっている人も増えてきて，実質無料で使用されるお客さんが増えている現状がある。
- 沼尾委員： 森林公園と比較をしても，冒険活動センターは良い施設だと思う。料金の徴収はしかたないが，基本的にはその収入をセンターで使うことができることが望ましい。
- 議長： なんとなく問題点が理解できたと思う。まったく無料で使用している人がいるということが問題であろう。その改善のために，今回示された案程度の使用料金の徴収は問題ないと思うがどうか。
- 一同： 異議なし。
- 議長： 運営協議会の意見として，参考にしていただきたい。
- 事務局： ありがとうございます。料金改正にあたり，参考にしながら進めていきたい。
- 議長： それ以外に，今後の冒険活動事業についてご意見をいただきたい。
- 福田委員： 市制100周年事業として建設され，開所から17年を迎えようとしているが，施設の補修が必要なところがでてきていると思う。困っているところなどあれば検討して，市への予算要望が必要ではないか。
- 事務局： 前回，村上委員から指摘いただいた園路の修繕については，現在工事ははいり，修繕を進めている。この場でもいろいろな意見をいただきながら，修繕を進めていきたい。予算との絡みもあるが，センター職員で修繕可能なものについては，自前で対応している。ロッジデッキ部の修繕については，来年度の予算で改修することになった。大規模な改修についても予算要望をだしながら，施設の修繕を進めていきたい。
- 議長： 予算要求に対して，この運営協議会の意見は重みがあるのか。
- 荒川課長： 重みはある。しかし，冒険活動センターだけを優先させるわけにはいかない。スポーツ振興課で所管しているスポーツ施設がいくつかあるが，多くが東日本大震災で被災し，国，県の予算などをつかってその復旧に努めているところである。清原体育館，河内プールについては，年度内も復旧の見込みがつかない状況である。冒険活動センターの改修，修繕についても予算前に要望を受けている。全部というわけにはいかないのて，そのなかで優先順位をつけて対応していきたい。
- 議長： 1つ1つの補修について，われわれはチェックをすることはできないので，センターにお任せしたい。
- 議長： ほかのご意見どうか。先ほどから一般利用についての話がでてているが，ホームページなどで利用状況を確認をすることはできるか。
- 事務局： 電話で確認してもらおうという方法をとっている。
- 福田委員： 利用状況などの情報をホームページで公開することを考えているか。宇都宮市文化会館などは公開している。
- 事務局： どんなかたちでの公開がいいか検討している。市のホームページ，広報誌を介して，利用制限のある日については情報を公開している。状況に応じて，ホームページをリニューアルするなど情報発信の仕方を検討していきたい。
- 福田委員： ホームページを作るにも職員ができなければ，業者に依頼することになるとまたお金がかかる。
- 事務局： 現在は職員が対応している。
- 福田委員： 各部屋，各テントの空室情報まではいらぬが，空きがあるのか，ないのかだけでも公開できるとよい。携帯電話で情報を得て，携帯電話で予約をとる人が多くなっている。細かな情報については，お問い合わせくださいでもよいのではないか。また，FACEBOOKやTwitterの積極的な活用を考えてはどうか。イベント情報などもそういったSNSを活用して情報をながすと思わぬ集客があると思う。
- 事務局： オリオンスクエアの大型映像機器での情報提供を行ったり，市ホームページのイベントカレンダーに積極的に掲載したりと新しい情報発信の方法について今後進めていきたい。
- 福田委員： 今，若者は携帯電話を何台も持っていて無料通話を使い分けている状況である。そういうITのなかに埋もれている子どもたちに電気もない，情報源もないところでどう時間を過ごすかという体験は子どもにとっては大切なことである。

- 議 長 : エンジョイサタデーは予約なしで開催しているが、一度に大人数が参加した場合はどのように対応しているのか。
- 事務局 : 10名以上の団体は事前に連絡をしてもらっている。急に増えた場合は、内容を一部変更して対応することもある。個人の参加で100名を超えてしまったこともあったが、それについては参加者に理解を得ながら対応した。
- 議 長 : ほかにご意見はあるか。
- 事務局 : 最後に、地域の協力に関してお伝えする。予算が少ないなかで運営をしているが、今までは購入していたものを林業センターのご協力をいただいて加工し、教材として提供したり、園内整備の材料にしたりしている。地域の製材工場では、木材をチップに加工してもらい、活動場所に撒いたり、地元の方から竹の提供をいただいたりしている。学校からも、廃材などが出た場合に燃料として提供してもらうなど、地域から協力を得ながら運営をしている。予算が大きく削減されていくなかでこのような協力を助けられている現状である。ほかに、みなさんからも情報やアイデアをいただきながら運営を進めていきたい。
- 議 長 : いかがか。林業センターには、お世話になっているようだが。
- 田代委員 : 林業センターで出る廃材を提供している。
- 議 長 : ほかにこんなものを利用できるのではないかというご意見はないか。なにか案をお持ちの場合は、直接センターまでご連絡いただきたい。
- 議 長 : では、進行をセンターにお返しする。